



布引地域 まちづくり計画

第3次清流の里プラン

<見直し版>

布引地域の概要

布引地域の概要

布引地域は伊賀地域の東北部に位置し、東は阿波地域、西は山田地域、南は上津地域、北は壬生野地域に接し、川北・広瀬・奥馬野・中馬野・坂下の5地区から構成されています。布引山地(青山高原)の西麓にあり、馬野川・左妻川などは木津川の源流で淀川に注ぐ水源の里です。そして馬野溪谷は多くの巨岩が立ち並び、清流が小さな滝を作り、新緑や紅葉の頃は心が洗われます。清流が育てた伊賀米は特Aに選ばれています。また当地区は自然環境に恵まれ、杉や桧の美林地域でもあります。また、布引山地には風力発電、馬野溪谷には小水力発電、広瀬地区にはバイオガス発電の施設があり、「再生可能エネルギーの里」として、近年見学者が増えています。

令和4年9月現在、布引地域は総世帯数:144戸、総人口:413人、その平均年齢は55.7歳、65歳以上の高齢化率は47.7%まで上昇しています。

また、後継者の他地域居住で、単身高齢者や高齢者のみの世帯が増加していて、管理者不在の空き家発生(課題も解消されない物件)が増加されつつあります。

そこで布引地域住民自治協議会では、平成28年2月18日に多様化する住民のニーズに対応し、住み慣れた地域で安心して生活できるよう【布引「清流の里」ケアネットワーク会議】を設立しました。

この会議は、提出された希望、あるいは発生予想される地域福祉の課題について、地域内関係者の総意と工夫で、生活環境を改善しようとするものです。

『地域でできる事を地域で』を基本とし、大山田支所をはじめ行政の支援及び関係機関、あるいは他地域の理解と協力を得られる様働きかけております。

しかし、その後伊賀市の行政及び財政方針が大きく変革され、人口減少と少子高齢化、交付金・補助金等財源縮減化、公共施設最適化等急速に状況が変貌しています。

国の『まち・ひと・しごと地方創生法』が施行されましたが、周辺地域では正直ピンとこないのが現実です。「第2次清流の里プラン」から7年が経過し、社会変貌の多様な中で10年先を見据えた「第3次清流の里プラン」の見直しを行ないました。「地域のことは地域で」の方針を実行するために以下の計画を策定します。

布引地域まちづくり計画の見直しについて

現状の課題

1 少子高齢化と人口推移

令和4年9月時点において、布引地域の人口413人、世帯数144戸、高齢化率は47.7%（65歳以上高齢者のみ世帯70戸(48.6%)、内一人暮らし高齢者世帯29戸(20%)）となっていて、人口は毎年減少傾向(別紙推移表参考)にあります。

対策案

- 孤立者の防止
- 移住促進
- 関係人口の増加

2 農林業の衰退

農林業従事者の高齢化と後継者不足により、休耕田畑や管理の遅れた森林が増えてきています。環境や防災の観点からも人の手を入れる必要があります。林業においては布引地域の森林面積2,228haに対して従事者が3名(70歳以上)兼業5名という状況です。

対策案

- 高齢者がいきいき働ける労働環境の整備
- 食料の地域内確保
- 特産品の開発
- 地域の活性化

3 防犯・防災の整備

土砂災害・水害ハザードマップによると、警戒区域に多くの住宅地が存在します。地域を南北に縦貫する県道2号線の通行が出来なくなった場合、それぞれの地域の孤立が予想されます。また、道路脇の河川からの支障木が放置されていて、倒木が発生すると甚大な被害を誘発させます。さらに、防災行政無線システムが令和4年11月末で廃止されたため、地域の情報伝達及び共有体制を構築する必要があります。

対策案

- 危険木・支障木の伐採
- 迂回路の開設
- 防災行政無線に変わる情報システムの構築

4

情報共有・交流・地域愛の促進

布引地域には多くの城館遺跡があります。特に中馬野・奥馬野・坂下地区の城館は、織田信雄による「第一次天正伊賀の乱」で伊賀側の防衛拠点として活躍したと考えられていますが、住民の関心は薄く、埋もれてしまっています。

地域に古くから受け継がれてきた食や文化の知恵は、伝承されず伝統の「途絶え」が懸念されています。また、地域出身者には世界レベルで活躍している人がいるのですが交流していません。

対策案

- 伝統・文化の継承
- 地域のつながりを深める
- 地域を出て活躍している人との交流
- 地域愛の再確認(情報共有)

基本戦略

平成27年度に作成された「伊賀市地区振興計画」によれば、大山田地区のまちづくりの目標として

「次代に繋ぐ、誰もが住みよい、いきいき輝くまちづくり」

とされています。

布引地域では、地域住民の協力のもと、「ささゆりの里」の整備や、「ブドウ山椒」の栽培、「杣人養成講座」の実施など、ささやかではあるが活力のある事業を実施してきました。小規模な地域ではありますが、住民相互の「支え合い」と「持続的発展」をテーマにしたいと思います。

また、地域内にある「ライトピアおおやまだ」と連携し、生涯学習支援員や地域外協力者との援助を受けながら推進していきます。

具体的戦略

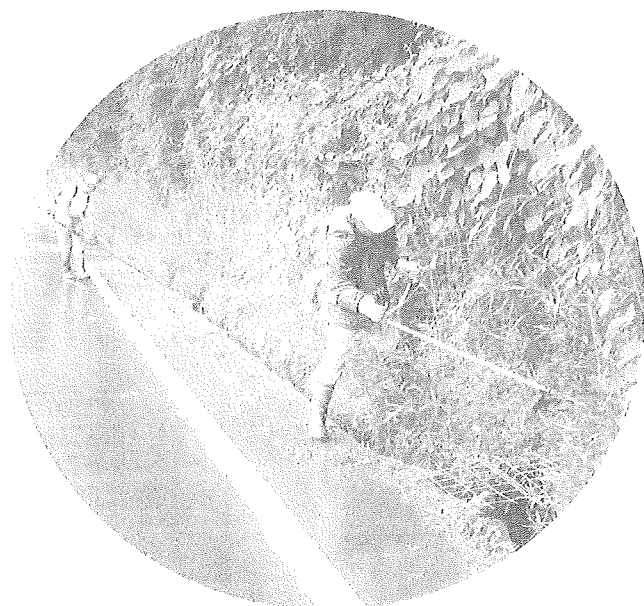
先に挙げた課題を解決すべく具体的に次のような活動に取り組みます。

- 戦略1. 住民一人ひとりを「おたがいさま」の精神で支えます。（健康福祉部会）
- 戦略2. 移住促進と関係人口の増加をめざします。（まちづくり委員会）
- 戦略3. 地域の伝統・文化の継承をめざします。（人権・教育・文化部会）
- 戦略4. 農林業の持続的発展と特産品づくりに取り組みます。（産業交流部会）
- 戦略5. 安全で安心して暮らせる地域づくりをめざします。（防災安全部会）
- 戦略6. 恵まれた自然環境の存続と地域内の美観整備に取り組みます。（環境保全部会）

戦略 1

住民一人ひとりを「おたがいさま」の精神で支える取り組み

- A 移動手段の確保
- B 見守りと孤独化を防ぐ
地域福祉ネットワークづくり
- C 住民の交流の場の設定
- D 健康チェックなど健康寿命の延伸
- E 草刈りなど困りごとの相談窓口の設置



戦略 2

移住促進と関係人口の増加

- A 空き家対策と、市の移住推進課との連携
- B 交流イベントの実施
- C 地域外の協力者との連携



戦略 3

地域の伝統、文化、行事の継承

- A 郷土伝統行事や郷土食の継承支援
- B 史跡、名勝の再発見と情報発信
- C 歴史から見る詳細地域名の共有見える化



戦略 4

農林業の持続的発展と物産づくり

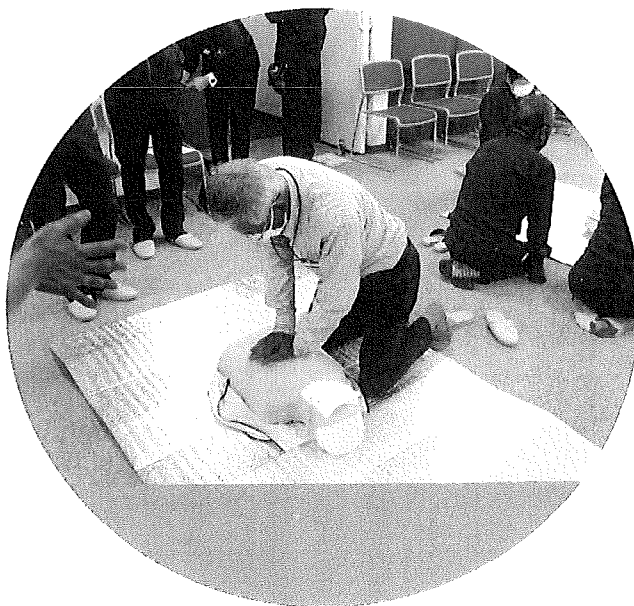
- A 各地区の共有林の確認と森林管理技術の継承
- B 農林業従事者への研修支援と
木材利用方法の研究
- C 地域の休耕田の確認と再利用法の検討
- D 杣人養成講座の活発化



戦略 5

安全で安心して暮らせる地域づくり

- A 幹線道路の整備と支障草木の撤去
- B 交通危険箇所の注意喚起
- C 緊急避難通路確保の検討
- D 防災意識の高揚と各種情報の共有



戦略 6

自然環境の存続と景観美化への取り組み

- A ささゆりの里の整備
- B 各地区に適した山野草の栽培
- C 珍しい植物等の発見・調査
- D リサイクル資源の活用



部会計画

1.健康・福祉部会

2.環境・保全部会

3.防災・安全部会

4.人権・教育・文化部会

5.産業・交流部会

6.広報委員会

7.布引「清流の里」
ケアネットワーク会議

8.杣人養成講座

まちづくりの基本方針

地域のふれあいとつながりを大切に、誰もが住み慣れた土地で、安心して暮らせるネットワーク作りと、一人ひとりが健康への関心と改善を高めることを目指す。

現状

少子高齢化が著しく、その為に高齢化率が47.7%(令和4年9月現在)に上昇し、寝たきりや要介護高齢者が増加している、近い親族が遠隔地でもあり、孤独生活が常態化し近所付き合いも徐々に減少傾向で、地域での交流が断絶状態傾向である。また、昼間の一人暮らし高齢者も増加し健康状態の自己把握が困難となりつつある。

課題

集落が散在している当地域では、車両運転ができない遠出の苦手な高齢者に対して、身近な各地区の公民館及び小規模集会施設を利用して、相互に集い自身の健康維持と高齢者同士及び世代間の交流を図り、地区内での「いきいきサロン」等を活用して繋がりを持つことにより、安心して暮らせるネットワーク作りが必要である。

将来像

豊かな自然環境の中で、地域の一員として自己管理ができ、心の繋がりを持ち、一人ひとりが人生経験を活かした、生きがいと夢を持って暮らせる地域となる。

活動施策

健康づくり

- ① 布引地区世代間交流グラウンドゴルフ大会
- ② 布引地区世代間親睦運動会
- ③ 森林浴ハイキング
- ④ 体調管理・健康器具の活用

高齢者への対応

- ① 生活環境支援
- ② 地域見守り支援体制の整備
- ③ 布引「清流の里」ケアネットワーク会議の活用
- ④ 「いきいきサロン」活動支援
- ⑤ 安否確認・相談傾聴支援(民生委員と連携)



02 環境・保全部会

まちづくりの基本方針

持ち出すことの出来ない、尊い布引の環境は、自分たちで守り育てよう。

現状

豊かな自然と歴史的景観の整備・維持・保全に幾多の先輩たちが取り組んできた。しかし、度重なる災害発生による被害や、野生獣(鹿・猪・猿・有害小動物等)の生態系の変化により、地域の周辺環境が大きく変貌しつつある。特に、住居圏へも及ぶ野生獣被害は深刻で、農業生産物及び育林保護も含め、多額な費用を投入して防御対策を実施している。

課題

平成4年度から継続してきた「地域づくり景観整備事業」の思想と実践は、各地で維持・継承はされているものの、布引地域全体の事業及び活動まで浸透しきれず、布引地域住民自治協議会としての共有した目標を掲げ、住民全体へ周知・伝達して、理解と協力を得る必要がある。

将来像

「清流の里」の名の通り、各河川の源流水が流れる自然環境及び先人達の育ててきた森林の特色を生かし、四季を通じた景観・景勝地保全と、豊富な林業副産物を活用した「杣人養成講座」と連携して、身近な生活圏の環境づくりを目指す。

活動施策

- ① 「ササユリの里」維持管理
- ② クリーン大作戦(不法投棄ゴミ回収作業)
- ③ 環境パトロール
- ④ 共有林間伐材・竹材の利活用
- ⑤ 地域内道路の沿道美化と安全対策
- ⑥ 景勝地・溪谷等の整備
- ⑦ 再生可能エネルギー施設との連携(風力・小水力・バイオガス発電所)
- ⑧ 「杣人養成講座」との連携
- ⑨ 歴史遺産・史跡の整備
- ⑩ 幹線道路沿の支障草木の除去



まちづくりの基本方針

地域住民が安全・安心に生活するために、地域全体での自主防災組織の体制づくりと防災意識の高揚、及び日常から仲間意識(助け合い)を持続し、相互支援を図る。

現状

地域内を南北に縦断する県道2号線は、生活道路であると同時に、災害時の唯一の避難移動幹線道路であるが、河川と平行で急傾斜森林が迫り、河川増水時には冠水状態及び土砂崩壊の危険性がある。

また、本路線は傾斜・カーブが多く、冬季の積雪及び凍結時は車社会と言われる中で、各集落住民が孤立してしまい、緊急車両すら運行できない。

あわせて、山間地域特有の沿道側近の生育した雑木を含む、森林整備(張り出し枝除去)も必要になる。

課題

少子高齢化地域の特徴で、住民票が地域内にあっても、高齢者以外の住民の大半の昼間就業地は、地域を離れた場所であり、有事の際は消防団員も不在で、機敏な対応が不可能となっている。

要緊急避難時は移動手段を持たない高齢者、あるいは介助が必要な障がい者への援護はもとより、自宅からの避難支援行動すらもできない。

高齢者だけの自主防災組織には限界がある中で、近接地区との連携体制を強化し、相互支援と情報交換が必要である。

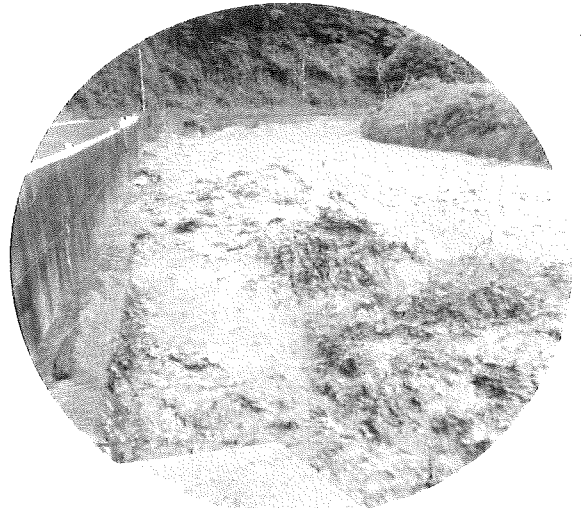
将来像

地域住民の誰もが安全で安心な生活ができる地域を望んでいる。

有事の際の駆けつけ支援体制の確立と役割を、布引地域住民自治協議会を核とした、自主防災組織を通して日常から連携し、互助推進できる地域を創造する。

活動施策

- ① 地区・地域自主防災組織体制の充実と支援
- ② 消防体制の整備と後継者育成支援
- ③ 非常時初動対処の円滑化周知
- ④ 交通安全意識持続の啓発
- ⑤ 定期的(4月)「災害時安否確認・避難支援登録シート」の更新(1回/年)
- ⑥ 防災情報共有と支援



まちづくりの基本方針

一人ひとりの人権が尊重され、全世代に及ぶ豊かな学びと知識習得の場を提供し、家庭を基準とした教育による成長が体感され、差別のない人間尊重で地域文化の創造と、歴史や文化の継承を目指す。

現状

地域内を南北に走る幹線道路「県道2号線」は、唯一の移動・交流手段で、公共施設は「ライトピアおおやまだ」のみで、地域住民が一同に集う場所はここ一か所しかない。児童・生徒の登下校はスクールバス乗車であり、地域住民と接する機会も少なく、各地域での世代間交流頻度は減少しつつある。しかし、人権尊重意識はどの地域よりも高いと自負している。

課題

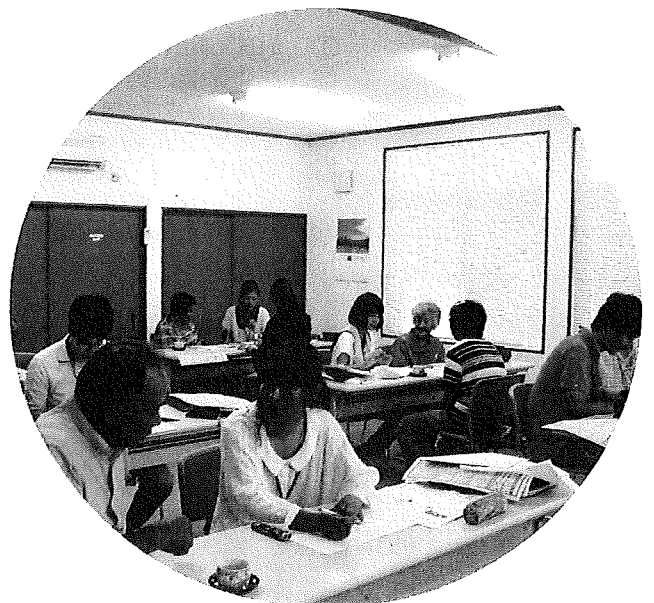
65歳以上高齢化率は47.7%に達し、種々の活動における女性の起用も少ない。家庭についても、核家族化で高齢者世帯が増加し、同居家族でも昼間高齢者のみ一人暮らしもあり、更に世代間交流の機会が少なくなっている。

将来像

一人ひとりの人権尊重と相互理解を最優先にし、世代間交流事業及び男女共同参画活動において、歴史・文化的遺産等の実教材を次世代に継承するとともに、地域で子供たちを育てられるような風土を作る。

活動施策

- ① 人権文化の創造と向上
- ② 高齢者世帯の生活改善支援
- ③ 情報提供の推進
- ④ 地域住民交流の場の提供
- ⑤ 地域の歴史・文化の継承
- ⑥ 地名マップ作成
- ⑦ 子供の育成と見守り支援
- ⑧ 自然環境生育草花名称表示
(看板等設置)



05 産業・交流部会

まちづくりの基本方針

農林業基盤整備の充実と地域特産品の開発を図るとともに、後継者の育成を図る。豊かな自然と伝統を活かし、産業・観光の交流と振興を目指す。

現状

典型的な山間地帯にあって、林業作業は専門技能と体力が必要で、なおかつ危険が伴う重労働に対して後継者育成が難題で、経験豊富な従事者も高齢になり育林のための間伐作業は遅々として進んでいないのが現実です。そのため、降雨時の急激な増水と流木により、下流域居住者への災害に危惧している。

高齢化社会にあって、特産品開発は地域の環境にあった新種植栽品種の促進は、高齢者でも可能な作業という条件は外せない項目となっている。

また、農業についても70歳代以上が中心であり、耕作放棄地及び農林業公社等への委託面積が増加傾向にある。

課題

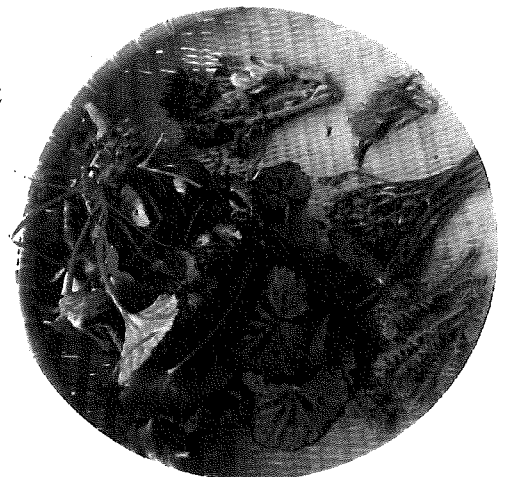
自治協役員及び実行委員も高齢化で、50～60歳代はまだまだ現役就労者で、「会議は夜間、活動は休日のみ」に限定され、企画・計画しても本番になれば高齢者の協力が無ければ実行できず、後継者育成が後手になっている。壮年層人口が少なく自治協活動にたいする必要性子どもの数が減少しているため、世代間事業の範囲が限定されつつある。

将来像

人口減少及び高齢化率上昇における、過疎対策事業が必須となっている。地域環境の特色を活かした産業開発が必要で、他地域住民との交流活動を通じて活力ある地域の創造をしなければ集落事態が限界になる。

活動施策

- ① 林業農業観光等の関係機関・団体との連携
- ② 木材利用の促進
(杣人養成講座との連携・世代間交流事業)
- ③ 耕作放棄地活用及び獣害防止対策
- ④ 高齢者従事可能な農林特産物の普及及び営農支援
- ⑤ 再生可能エネルギー3施設との連携による地域振興、観光交流、世代間・地域間交流事業支援
- ⑥ 野生食用植物の有効活用
- ⑦ 地産地消活動の促進



まちづくりの基本方針

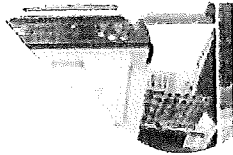
地域内全住民が共通した地域情報を共有し、地域間・世代間格差をなくすとともに、相互コミュニケーション発信の核とする。



現状

「布引自治協だより」を、年間4回、地域内での自治協事業及び活動の経過情報を紙面数は不規則だがカラー印刷版で全戸に配布している。発行時期は不定期であるので、情報の時差が発生する場合がある。

令和3年度宝く



課題

情報は事務局からの一方通行で、「広報」として情報提供と啓蒙連絡の役割でしかなく、現状、情報交換には至っていない。投稿記事や意見・主張コーナーの設置がない。

将来像

電子媒体による通信手段が整備されていない地域の特徴があるため、事業・活動の情報伝達及び啓蒙・周知には欠かせない。事務局連絡以外に、投稿記事・聞き取り記事等を掲載し、住民の意見・主張・要望(世代を問わず)等も広く伝達(紙ベース)する手段とする。

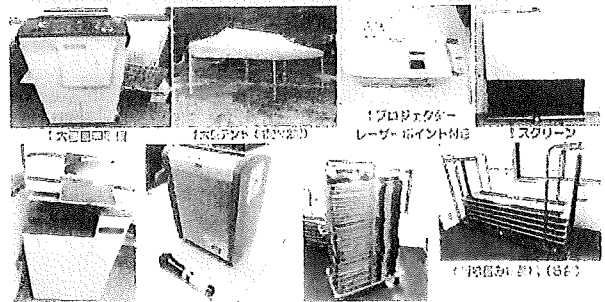
活動施策

- ① 取材・聞き込み活動
- ② 啓蒙・周知記事掲載
- ③ 公共情報機関との連携

布引自治協議会だより

第41号
令和3年12月1日発行
発行所 布引自治協議会
〒410-0202 静岡県浜松市東区
布引町7-1-1
電話 053-47-2253
FAX 053-47-2254
Eメール info@nunobiki.or.jp

令和3年度宝くじコミュニティ助成事業報告



まちづくりの基本方針

「誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるまちづくり」という理想に対し、現実には少子高齢化がすべての地域で進展し、公共交通システムが充分でなく車両運転の出来ない高齢者の移動範囲が著しく狭くなっていく地域において、住民同士の相互行動支援が必要である。特に緊急時・急用時の対応について、日常の連帯意識の持続と強化を推進する。

現状

総人口413人、うち65歳以上高齢者数197人、高齢化率47.7%。18歳以下若年者数35人、若年者率8.5%。間もなく2人に1人が高齢者になり、総世帯数144戸の内、高齢者のみ世帯数は70戸で48.6%に、そして2戸に1戸は高齢者のみ世帯となる。また、1人暮らし高齢者が増加傾向で地域内での安否確認が重要となっている。

課題

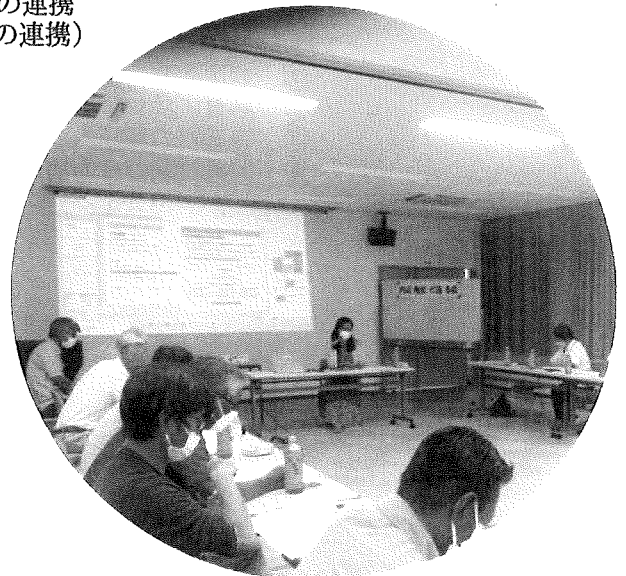
少子高齢化地域の特徴は、支える側の人口減少も進み、老々介護が通常になるだけでなく、1人暮らし高齢者の介護は福祉機関の援助が必要になる。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」地域創造について障害が多すぎる。

将来像

「御用聞き受付所」的な集団を組織化し、特定作業に偏らない生活支援体制を準備する(なんでも屋)。・・・「健康な心身維持技能集団」

活動施策

- ① 地域の困りごと相談受付・傾聴と支援
- ② 随時のケアネットワーク会議開催
- ③ 伊賀市ケアネットワーク会議連絡会との連携
- ④ 地域見守り情報の把握(民生委員との連携)



まちづくりの基本方針

豊富な森林地帯に四方を囲まれた山間地域において、豪雨時洪水を誘発し、下流域に住居する住民の不安要素となっているなかで、安全・安心なまちづくりと少しでも美林になるよう、間伐作業を行い、その副産物を活用するべく「布引杣人養成講座」を創設しました。
更に、布引地域ならではの特産物開発も同時進行で実施し、後継者育成と地域振興に努める。

現状

共有林を手始めに間伐した木材を搬出し、製材加工した木材で年一回「木工教室」を開催し、地場産木材への親しみと木工製品でコミュニティビジネスを行っている。山間地域特性の産物「椎茸菌打ち教室」を開催し、自宅での栽培を受講者に楽しんでもらっている。
また、最近は野外キャンプに使用される「薪」の製造販売も手掛けコミュニティビジネスに繋げている。

課題

先人達が丹精込めて育ててきた森林は、社会経済の変貌と少子高齢化の波の中で、適正な管理(間伐作業)が行き届かず荒れている。そのため台風等豪雨時は急激な増水で洪水を誘発させて、地域内を流れる河川付近に住居している住民の、不安がぬぐい切れないでいる。
また、作業の危険性と重労働がともなう林業作業は、従事者の高齢化と木材利用需要の低迷が相まって、後継者育成ができず、個人所有林すら放置状態である。

将来像

森林及び木材への関心を強調し、実益を兼ねた森林活用と木工製品開発でコミュニティビジネスを目指すとともに交流人口を増加させ、地域特産物開発も積極的推進する。

活動施策

- ① 地域外協力者とも連携し地域振興に努める
- ② 必要工具を揃える
- ③ 特産物の積極的販売の検討
- ④ 公共施設の有効活用

